

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500309		
法人名	有限会社 スピリッツ		
事業所名	グループホーム 淳厚苑		
所在地	岡山県津山市加茂町塔中105番地		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373500309&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373500309&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>その人のペースで生活ができ、自分の個性を出せている。</li> <li>自宅では落ち着かず家族が疲れてしまっていたが、ホームでの生活で、自分の場所が持てて笑顔となり、生活改善ができて家族も度々来られ安心できる。</li> <li>職員も利用者も自分のしたい事はできる場であり、家族同様の生活ができる。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長くこの地で地域医療に携わってきた母体医療法人の2階部分にホームがあり、すぐ近くには町役場や文化センター・幼稚園等が林立する町の中心部に位置している。ホームと母体の医院は、医療と介護の両面から地域に貢献し、地元の信頼も厚い。手厚い人員配置で行き届いたサービスを提供して利用者の出来る家事や手作業等を上手く支援し、活気と明るさを引き出している。廃物を利用した作品を、地域イベントに出品したり、幼稚園や保育園の卒園プレゼントにする等の地域交流も定着した。入所して落ち着いた利用者には家族も安心し、壊れかけていた家族関係が修復出来た人もいる。開設して7年目、実績と実力を備えた頼もしいホームである。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入り口に手作り理念を掲げ、毎日共有し、理念に近づけるよう努めている。	理念“真心で家族の味わい”は目に付き易いリビングに掲示し、常に念頭に置いて日々の支援に活かす様心掛けている。職員の離職も殆どなく、よく浸透しているが、時々職員ミーティングで確認している。	とても判り易い理念なので職員もよく認識出来ているが、更に一步踏み込んで職員間でよく話し合い、理念に添った具体的な目標を作成してみては如何だろう。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ホームを知ってもらう為 幼稚園・保育園へ卒業プレゼントをする。 (手作り人形・淳厚苑パンフ) 駅での年2回売店(手作り作品を安価で販売、PR)	地域の祭りの御輿がホームに立ち寄り、文化センターでの町内の展示会やカラオケ大会に出掛けて行く等、積極的に町の催しに参加している。近所の人から収穫した野菜や花を差し入れてくれる等、日常的な付き合いも出来ている。	昨年の評価での提案を真摯に受け止め、中学生・夏のボランティアへの働きかけをする等、地域交流に努めている。更に良くなるようとする向上心を感じる。今後も継続して欲しい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域ケア会議を利用し、知識を生かし支援方法、対応の仕方を広報している。 ・作品作りをし、生きがいを持ち、地域の人々と交流の場を持つ。(市・包括支援センター・民生委員等、問題ケースへの対応方法)		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・防火訓練に実際参加してもらう。 ・現在起こっている問題を事前に報告し話し合う。 ・家族が出来るだけ参加できるように声かけを上手にする	社協や市町村担当者・民生委員・家族・学識経験者、時には利用者も参加して、2ヶ月に1回運営推進会議を開いている。社協が中学生のボランティアの口利きをしてくれたり、出席者から行事の紹介を受ける等、会議開催効果も挙がっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域ケア会議に参加し、市・各事業所と連携をとっている。 ・常に相談しながら協力を築いている。	何かあればその都度市町村に相談し、指導・助言を受けている。運営推進会議に市町村担当者も参加しているので、ホームの現状を理解して貰えている。互いに情報交換しながら協力関係を構築出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関には常に開放し、徘徊する人には寄り添うようケアをする。 ・病院よりミトンの指示がある時はミトンをせず、手を握り付き添う等、会議等で話し合い取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、職員ミーティングでもよく話し合っている。管理者は病院から指示された場合も、その人の気持ちになってよく考えて対応して行こうと職員に伝えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体観察をし、変化に気付く目を持ち、会議でマニュアルをもとに話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・重度化に伴い、次のサービス利用につながるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・運営推進会議や個別での説明をし、納得され同意してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議での意見は職員会議に於いて職員に伝え、運営に反映させている。	ホームは何かあれば家族に連絡し、互いに相談し合い、小まめに情報を伝えているので、家族との意思疎通はよく取れており、面会も多い。運営推進会議に家族の出席もあり、公の場で意見や要望を発言する機会も提供出来ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月一回の職員会議(全員参加)や毎月のミーティングで気付いた点や意見を聞き、話し合って即反映させている。	毎月定期的に職員ミーティングを実施し、相談して認識を共有している。余程の事がない限り、職員達は会議に出席して、活発に意見を述べている。ミーティング記録でも、有意義な話し合いを確認出来た。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施している。 ・毎年契約時に各人面接を行い、意見を話し合い、働きやすい職場にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施している。 ・資格取得に向け情報提供したり勉強の仕方を協力している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施している。 ・地域事業者の参加する研修に参加し、職員会議にて実践し、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所した時は特に不安であり色々な症状がみられる。出来るだけ1:1で対応し、一人ではないということに気付いてもらい、信頼を得るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所時は環境変化が大きく、家族は今迄の不安から開放されるが利用者は負担が増える。 ・家族の意見を聞き、相談しながら関係づくりをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・困っている事を優先しながら楽しめるような対応をする。(1:1の対応により安心できるようにする)		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・暮らしの中で、できることをして協力し合える関係を保っている。(食器洗い、片付け、掃除、洗濯たたみ等)		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・都合のつく限り来て頂き、リビングで他の利用者も交え話をしたり、家族の心配を少なくする為に「できる」事を報告して安心してもらい、良い関係を作るよう努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・元気な時にカラオケクラブに入っていた人は、カラオケ大会見学に行ったり、近隣と話したい人は家に行ったり近所へ遊びに行き、本人の喜ぶ顔を見る支援をしている。	近隣出身の利用者が多く、ホームは町の中心部にあるので、友人・知人の面会も多い。ドライブの途中で利用者の実家に寄って草取りしたり、墓参りする等、その人の希望に添った個別支援も行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り、利用者同士が楽しく過ごせるよう支援している。 ・テレビの風景を見て画像で楽しみ会話が弾む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他の施設へ利用者と一緒に訪問したり、入院先へ見舞に行ったりしている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何回も繰り返し話しをしたり、困難な場合は顔の表情や体の動きを見て把握している。	本人や家族の言葉をよく聞いて、その人の生活全般を考えながらプランに反映出来る様配慮している。「私、体操嫌いなんよ」利用者は遠慮なく自分の気持ちを述べて居室に帰る。我慢しなくて良いから明るい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者との会話、面会者や家族のちょっとした事を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の申し送り、毎月の職員会議、日誌、個人記録等により把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月1回の会議や日々の工夫、家族の意見、運営推進会議での意見等を取り入れ作成している。	管理者(計画作成担当者)が本人・家族から話を聞いて情報を職員達に伝え、皆で相談して介護計画を作成している。毎日モニタリングして検証し、状態に応じてプランを変更して現状に即した介護計画を実施していた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・できること、できないことが日々変わる事があるが、小さな変化を見つけ、計画を変えて見る等反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出したい時には外出したりその時その時を大切にに対応する。1日中話をしたい人には、職員が交替で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・神社参拝やカラオケ大会に応援に行ったり、子供との触れ合い、スローライフ列車の売店は地域商工会と協力している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院が同一敷地内にある為、急変時や小さな変化も即対応出来る。	基本的には家族に通院付き添いをお願いしているが、困難な場合はホームでも受診支援しているので掛かり付け医との関係も構築出来ている。母体医療法人がホームの協力医として全面的にバックアップしてくれるのも心強い	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同一敷地内に病院があるので、迅速、適切な対応が可能である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・病院初診については家族に様子を伝え、付き添ってもらう。(利用者の状態は書面で渡す) ・1週間に1回見舞い、家族との話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・夜間時、職員が一人となる為対応できないので、家族と話し合い、協力を求め夜間付き添いが可能であれば、話し合っでの対応ができ支援可能である。	医療的な問題もなく、本人・家族の強い希望があり、家族の協力も得られるならば、ケースバイケースだが、職員ともよく話し合っで、出来る限りの支援をしたいと考えている。母体医療法人との連携体制はホームの強みでもあり、家族にとっては安心材料となっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員会議において、急変時や事故発生時の勉強の時間を作っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に1回、総合訓練を実施している。毎月の職員会議において即対応出来るように訓練している。	消防署の協力を得て、利用者も参加した母体法人との共同避難訓練を実施し、2ヶ月に1回は消化器や火災報知機の使用方法を職員間で確認している。緊急時のマニュアルや連絡網も作成している。近隣住民の協力体制も確保している。	昨年の評価結果を受け、運営推進会議と避難訓練を同時開催して、より具体的な対策を検討出来ている。新型インフルエンザ対策も話し合う等、危機管理意識に大きな進展がある。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・自然体で、家族のようにその人に合わせて馴染みの会話で対応している。	「こんな下手な字で書いて、好かん！」今はもう書けなくなったが、昔は書道の達人だった人が、コップに書いた名前を指差してはっきり言う。表情や様子を見ながら、プライドの高い人や信念を持っている人等、その人に合わせた言葉掛けを心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・会話を大切にし、表情や顔色を見ながら自己決定を出来るようにする。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課にとらわれることなく本人の希望通り付き添い、外出等支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ほつれやボタンが取れたり等を修理したり、汚れをとったり、重ね着の調整をしたり等、気付いた時に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・楽しめるように目の前で調理したり、畑から土をつけて収穫し、こやねぎをきれいにしてもらったりして意欲的に手を出せるよう工夫している。片付けは皆で食器拭きをして片付けている。	小さめの器に入れて、何度かに分けたお代わり形式にする等、食べ易い工夫をしたり、誕生日にはリクエスト献立にする等、配慮している。「自分で作った焼そばは如何?」「美味しゅうございます」談笑しながら皆で楽しく食事していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分はいつでも飲めるようカウンターに置き、おやつ10:00、15:00には好みの飲物を飲めるようにしている。 ・食べる時おかわりできるようにし、それぞれの利用者に対応し、野菜中心に栄養バランスを考えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、声かけをしている。出来ない方には介助し、出来る方には準備をして見守る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・夏場は布パンツを実施したり、夜間のみ紙パンツをしたりして利用者の力を活かし、トイレでの排泄に向け支援している。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛け、トイレ誘導していた。出来る限り薬に頼らず、トイレでの自然排泄を目指し、体調に配慮しながら布パンツ対応で頑張っていると聞いた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・2日に1回の排便を目指し野菜中心に食事を出し、食前には運動をして支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・基本的には決めているが、利用者希望で午前中にしたり、夏は毎日入浴したりするよう支援している。	体調さえ良ければ、週2回は入浴して貰う様誘っている。入浴拒否の場合も無理強いせず、タイミングをずらせたりして、その気になる様声掛けしている。「今日は何番目が良い？明日は入ると約束してくれたよなー」明るいやり取りで入浴する気になった人もいた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを崩さないようにしながら休む時間を作り(昼)、安心して眠れるよう電気や冷暖房に注意し支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が理解できるように変化時には一覧記録をし、理解して薬の管理が出来るようにしている。 ・日々バイタルチェックをし、変化の確認をしながら支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・誕生日には好きな物を作り楽しみにしたり、スローライフ売店に出す物(マフラー、毛糸タワシ、人形等)を作り、売りに行ったりして楽しんでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・実施している。 (実家へ行く、ドライブ等)	初詣や花見・紅葉狩り等、季節の行楽だけでなく、その気になったらドライブ・散歩等、フットワークの良い外出支援に努めている。面会に来た家族にも、一緒に買い物に行つて貰う様お願いしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・実施している。 (利用者の中には可能な方がおられ、価格をつけてお金の理解を促す。外出し買物へ行く)		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・実施している。 (面会時パンフレットを渡し、いつでも電話しても良い事を説明している)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・実施している。 (空間が狭いが工夫している)	食卓以外に長ソファや廊下向こうの談話室等、その時の気分に合わせて居場所がある。居室を巡る長い廊下の壁には共同作品を掲げ、絵や廃物利用の手作り作品等をあちこちに飾り、全体に親しみやすい雰囲気が漂っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファを2ヶ所置き、仲良し同士が話ができ、友達同士がお互いの部屋で話したり、一人でベットの中で雑誌を読んだりしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・持ち込み自由であり、使い慣れたものをボロボロになるまで持ち安心できるようにしている。	花やお気に入りの縫いぐるみを飾ったり、テレビ・イス等を持ち込む人も居て、どの部屋もその人らしい居室になっている。共用空間と居室スペースの長い廊下をとともわかりやすいレースのカーテンでさり気なく分ける配慮もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施している (直線廊下を工夫している)		